

洗礼者ヨハネの喜び

ヨハネによる福音書 1 : 6 - 8、19 - 28



司祭 ヨハネ 井田 泉

2023年12月17日

降臨節第3主日

聖光教会にて

「神から遣わされた一人の人がいた。その名はヨハネである。彼は証しをするために来た。光について証しをするため、また、すべての人が彼によって信じるようになるためである。彼は光ではなく、光について証しをするために来た。」

ヨハネ 1:6-8

今日はこの洗礼者ヨハネに注目してみましょう。ヨハネは、光なるイエスを指し示す人ために来た、とされています。わたしたちが彼の指し示すところに従ってイエスを信じるなら、彼の喜びは満ちあふれます。

ヨハネは自分のことをこう言いました。

「わたしは荒れ野で叫ぶ声である。『主の道をまっすぐにせよ』と」ヨハネ 1:23

ヨハネは、荒れ野で叫ぶ声です。彼は救い主を迎える準備をするように呼びかけます。その熱心さと真剣さのゆえに、彼は自分の存在がまるごと「叫ぶ声」となってしまうほどでした。逆から言えば、世の中と人々の心のありようがあまりにひどく、救い主を迎えるのに相応しくない状態だった、ということです。偽善、傲慢、暴力、戦争、搾取の現実は、まったく変えられなければならないのです。

洗礼者ヨハネとイエスの出会いを追ってみましょう。まずヨハネの誕生物語からです。

彼の父となるのは祭司ザカリア、母となるのはエリサベトです。二人は子どもがないままに、すでに年老いていました。あるときザカリアはエルサレム神殿の当番となり、主の聖所に入って神の前に香をたいていました。すると天使が現れてザカリアに言いました。

「恐れることはない。ザカリア、あなたの願いは聞き入れられた。あなたの妻エリサベトは男の子を産む。その子をヨハネと名付けなさい。その子はあなたにとって喜びとなり、楽しみとなる。多くの人もその誕生を喜ぶ。彼は主の御前^{みまえ}に偉大な人になり、ぶどう酒や強い酒を飲まず、既に母の胎にいるときから聖霊に満たされていて、イスラエルの多くの子らをその神である主のもとに立ち帰らせる。」ルカ 1:13-16

天使はザカリアに喜びを予告しました。「その子はあなたにとって喜びとなり、楽しみとなる。多くの人もその誕生を喜ぶ」と。

やがて彼の妻エリサベトは身ごもりました。胎内の子（ヨハネ）が6ヵ月となっていたある日、思いがけず親類のマリアの訪

問を受けました。マリアの挨拶をエリサベトが聞いたとき、その胎内の子がおどりました。エリサベトは聖霊に満たされて、声高らかにマリアにこう言います。

「あなたは女の中で祝福された方です。胎内のお子さまも祝福されています。わたしの主のお母さまがわたしのところに来てくださるとは、どういうわけでしょう。あなたの挨拶のお声をわたしが耳にしたとき、胎内の子は喜んでおどりました。」ルカ 1:42-44

6カ月の胎児ヨハネは、より幼い胎児イエスと出会って、喜んでおどった。まだ生まれる前にヨハネはイエスと出会い、喜びおどったのです。

イエスは生まれる前から喜びの光を放っていました。その光を受ければ、わたしたちの心も喜びおどります。

さてそれからおよそ 30 年たったある日のこと、ヨハネは、イエスが自分の方へ来られるのを見て言いました。

「見よ、世の罪を取り除く神の小羊だ」ヨハネ 1:29

これは発見の叫びです。このイエスは、祭壇にささげられる小羊のように、ご自分をささげて世の罪を取り除く方だ。彼には祈りが起こったかもしれません。

「世の罪を除く神の小羊よ、憐れみをお与えください」

わたしたちが陪餐の前に歌う（あるいは唱える）祈りです。

血を流して争うこの世の罪を除くために、みずからの血を流してこの世とわたしたちを救われるイエス。ヨハネのうちに、悲しみを湛えつつも感謝と喜びが起こります。

やがてヨハネは、ガリラヤの領主ヘロデ・アンティパスの悪を非難して、捕らえられ、殺されることになります。そのしばらく前でしょうか。ヨハネは自分の弟子たちに答えてこう言いました。

「花嫁を迎えるのは花婿だ。花婿の介添え人はそばに立って耳を傾け、花婿の声が聞こえると大いに喜ぶ。だから、わたしは喜びで満たされている。あの方は栄え、わたしは衰えねばならない。」ヨハネ 3:29-30

これはたとえです。花婿というのはイエスのことです。花嫁とは、救いを求める人々（わたしたち）です。ヨハネは花婿の友人、また結婚の介添人として、花嫁とともに花婿を待っています。花婿イエスが来られたので、ヨハネはうれしい。喜びで満たされます。この方イエス、世と人々を愛し救う主役が来られたのですから、自分は舞台から退場します。彼は「あの方は栄え、わたしは衰えねばならない」と言います。それは失望ではなく喜びなのです。

ヨハネの生涯から三つの場面を見ました。そこで気づくのは、ヨハネがイエスとの出会いによって何度も喜びに満たされたことです。

彼の生涯の初め、まだ母の胎内にあったときに彼はイエスと出会い、喜びおどりました。30歳を過ぎた頃、近づいて来られるイエスを見て、彼は思わず「世の罪を取り除く神の小羊」と言いました。イエスをはっきりと知った驚きと喜びがありました。そして生涯の終わり近く、「花婿の介添え人はそばに立って耳を傾け、花婿の声が聞こえると大いに喜ぶ」。ヨハネはイエスのそばに立って耳を傾け、イエスの声を聞いて喜びに満たされました。このように洗礼者ヨハネは、イエスとの出会いを喜び、人々をイエスに出会わせることを喜びとしたのです。

イエスはわたしたちのところに来られます。喜びをもたらす光として、イエスは来られます。イエスと出会う喜び、またイエスを人に紹介する喜び。洗礼者ヨハネの喜びはわたしたちのものです。

祈ります。

神さま、あなたは洗礼者ヨハネを遣わして、わたしたちが救い主と出会うようにしてくださいました。どうかヨハネの味わった主イエスとの出会いの喜びをわたしたちにも与えてください。このクリスマスに、まことの光なる主を新しく喜び迎えることができますように、イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン